

2017年版

# 市長コラム集



市広報誌「広報こおりやま」に毎月掲載

## 市長コラム (2017年7月号に掲載)

### 市長コラム 新しい教育に備えて

3月に学習指導要領が改訂され、「覚える教育」から「考える教育」へキーワードが変わりました。今後は、小学校・中学校・高校それぞれで周知が徹底され、移行期間を経て、2020年度から順次実施される予定です。

また、同じく2020年度には大学入試制度改革も控えており、先生も保護者も新たな教育に取り組まなければなりません。もちろん、当事者となる皆さんのお子さん、お孫さん大変です。



変革の推移をともに見守り、子どもたちを応援してまいりましょう。

変革の推移をともに見守り、子どもたちを応援してまいりましょう。

### 「大学入試共通テスト(仮称)」・「プレテスト」実施スケジュール(案)

出典：文部科学省 5月16日報道発表資料  
(高大接続改革の進捗状況について)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
「大学入試共通テスト(仮称)」の導入	実施方針の策定・公表	プレテストの実施	実施大綱の策定・公表	「大学入試共通テスト(仮称)」の実施
プレテスト	高校2年生以上を対象に、5万人規模で実施	高校3年生を対象に、10万人規模で実施	詳細は今後検討	

#### 「大学入試共通テスト(仮称)」とは？

文部科学省が、大学入試センター試験に代えて2020年度に始める共通テスト。英語での民間検定試験の活用と、国語と数学への記述式問題の導入が予定されている。

## 市長コラム (2017年8月号に掲載)

### 市長コラム 五百淵

行事があり、五百淵公園へ。時間があつたので、池を一周。池の北西の一角には、小魚をたくさん見掛けました。モツゴやモロコという種類だとか。「めだかの学校」のようにたくさん群れていました。

野鳥の営巣の公園として、つとに有名ですが、これも日本野鳥の会郡山支部(何と昭和22年設立、初代支部長・故 湯浅大太郎先生)や、五百淵公園保勝会(昭和51年設立)のおかげで、今やまさに「サンクチュアリ(自然保護区)」、96種の野鳥の飛来・営巣の池です。



また、公園の南側から見た

景観は、奈良の猿沢の池に似て、風情を感じさせます。郡山市の公式年表では、1707年造成とありますが、池畔の案内板には1630年オープン、と記載されています。

どちらが正しいかは史家に伺うこととして、現在この池は、行政上は農地課・公園緑地課・下水道保全課・河川課共管の池。いわゆる縦割りの弊害なきように所管を調整し、せっかくの先人のご尽力を無にすることなく、郡山のオアシスの一つとして大事にしていきたいと思います。

「三光鳥 菜の花すりて 一文字に」(日本野鳥の会初代会長・故 中西悟堂先生作。池の南側に句碑有。)サンコウチョウが飛ぶ姿を、ぜひ見たいものです。





# 市長コラム (2017年9月号に掲載)

## 市長コラム イカ(烏賊)とタコ

前月、鬼生田小学校で、東京農工大学の教授と大学院生による理科の夏季教室がありました。題して「スーパーアグリサイエンススクール」です。教室ではイカの解剖、屋外ではブルーベリー農園での学習。

パソコンとモニターを使っでの授業。私も生授業の聴講生(はじめて!)になりました。イカとタコのスミの違い、イカの頭はどこにあるのかなど、七十の手習いでした。



授業参観のつもりでしたが、名講義に私も生徒モードになってしまいました。イカとタコのスミの違いを知ったの

も大きな収穫でしたが、何よりの収穫は、実物教育のスゴワザ！。

子どもたちの受講態度はさまざまでしたが、だんだん身を乗り出し、先生の質問にもアクティブに挙手し、回答していました。参観しておられた先生方もアクティブラーニングされた模様です。

「少しのことにも先達はあらまほしきことなり」とは古文の一節ですが、これからは、お互いに先達(年齢不問)になる時代です。

大学も先達の指導の下、アクティブラーニングされていることを、お土産として頂いたお菓子で知りました。

市役所も「矩(のり)を越えず」アクティブラーニングにトライしてまいります。



▲大学で栽培した小麦を使用し、地元菓子店の協力を得て商品化したクッキー

# 市長コラム (2017年10月号に掲載)

## 市長コラム ドイツ・エッセン紀行(その1)

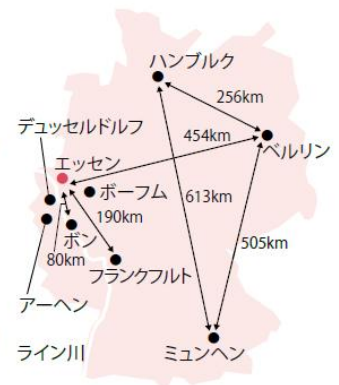
8月末に福島県と医療機器・再生可能エネルギー分野で連携する、ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州(NRW州)への訪問団(島副知事ほか)の一員として8月末に訪独してきました。

ドイツを代表する産業都市の歴史ある街並みや、雄大なヨーロッパ大陸を実感してきました。また、最先端の医療機関やエッセン市役所を表敬し、今後の交流発展への期待が膨らみ、刺激多き6日間となりました。



旅の見聞は、次号改めて紹介することとし、まずは旅程と、島国日本とは異なる広大な大陸の様子をご報告します。(関連25ページ)

日程	行程
8/27(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>成田国際空港発 (所要時間:12時間)</li> <li>デュッセルドルフ空港着</li> <li>ジェトロ・デュッセルドルフ事務所との意見交換</li> </ul>
28(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>NRW州経済省訪問</li> <li>NRW州主催イベント参加</li> <li>医療関連企業訪問 (ボーフム市)</li> </ul>
29(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>エッセン大学医学部附属病院視察</li> <li>エッセン市長表敬訪問</li> <li>県・NRW州共同セミナー (市長による郡山市の紹介)</li> </ul>
30(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療関係企業訪問 (アーヘン市)</li> <li>ベートーヴェン・ハウス訪問 (ボン市)</li> <li>フランクフルト空港発</li> </ul>
31(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>羽田空港着</li> </ul>



▲緑豊かなエッセン市の眺め

## 市長コラム (2017年11月号に掲載)

### 市長コラム ドイツ・エッセン紀行(その2)

日本時間午後11時(現地時間午後4時)に無事到着。睡魔をこらえて修学旅行生さながらに、飛行機の窓やホテルに向かう車窓からドイツの景色を熟視しました。空港周辺にはビル街、そして緑・緑・緑。

夕食はジェットロ・デュッセルドルフ事務所の皆さんと人気のレストランにて。店内は、仕事帰りではなく、帰宅後の家族連れでほぼ満席。伺えばこれが一般的とのこと。メニューは、丸ごとジャガイモとソーセージ&ビール、と質素でシンプル。4日間とも同様の食事でした。

現地での移動はバス。都市間はアウトバーン(高速道路)で速



度制限なし。車窓から山は見え、波のように起伏する農地が広がり、まるで北海道のよう。目にした川はライン川のみで、農業用水や工業用水、水道水はどこから?と独り言。また、至る所に風力発電機が立ち並んでいました。

本市に深い関心を寄せるエッセン市庁舎は、高層ビルです。最上階でレセプションが行われ、アルコールが提供されました。市内禁酒ではなさそうです。エッセン駅周辺では車道がなく、歩行者天国の様相です。郡山で言えば駅前大通りや大町通り、なかまち夢通りが歩行者専用街区になっていると思います。

ボン市では、緊張の面持ちでベートーベンハウスを表敬しました。楽聖と称される由縁を実感。葬列にはウィーン市民など2万人(当時の人口25万人)が参列したとのエピソードが、全てを物語っています。



## 市長コラム (2017年12月号に掲載)

### 市長コラム ドイツ・エッセン紀行余話

現在、EU国際都市間協力プロジェクト(※)による、エッセン市と郡山市間の市職員交流(旅費はEU負担)や産業交流の促進と、双方向のお付き合いが深まりを見せております。

12月1日には、クーフェン・エッセン市長が福島県—NRW州の行事参加に併せて来郡し、覚書を締結します。BtoB(企業と企業)とかBtoC(企業と一般消費者)とかの表現に倣えば、CtoC(シティとシティ、シチズンとシチズン)時代と言えましょう。まさに郡山市民力の成果です。エッセン市長ご来郡の折には、地図と



歴史を交えて市内をご案内しながら、郡山市(民)ナウをご理解いただくこととしましょう。

小生、大学受験の頃は歴史か地理の選択制のため、歴史を選びましたが、今回の旅で地理と歴史はセットで学ぶべし、と自戒。歴史は地理の上に展開し、地理変化は歴史の中で形成されたのですから。旅する音楽家・モーツァルトの人生を地図上でたどり、「この地」では「この曲、この演奏」との知識があれば、モーツァルトの作品、演奏の意識や理解がより深まることでしょう。ベートーヴェンの人生もしかり。それにしても陸海空、自然と人力任せの旅の時代によく音楽家は旅されたものです。

哲学者・カントは、生涯旅無し移住無し。彼の頭の中は、時空超越マップで出来ていたのでしょうか。凡人の私は日々現地・現物・現実を、五感の旅でマップを描いております。

※EUの都市と各国の都市が連携し、相互に共通する課題解決に取り組む事業